

・ 前回合宿に引き続いて企画された「公開個別フォロー」の時間でした。

個別フォローの内容を開示すると同時に、同席するメンバーとして、個別フォローレベルの気付きを与えるようなコメントが求められるという、緊張感も伴う時間は、単なる女子会とは違う関係性を築こうとしている場であることを感じている。

前回のテーマは「裸の付き合い」として、これまで話していなかったことをお互いに関示した場だった。

今回のテーマは「話すのに勇気が要る話、あえて人に話さないネタ」。

隠し事や秘密にしていることはもうないと思っていたけれど、そう言えば言い出しにくくて言っていなかったなという話題として、父の就業形態の話をした。

長時間労働が標準的だった時代に、驚くほど短時間の就労だった父の影響で、私は労働時間が長い人に対して、コスパ(要領)悪いんじゃない？と思ってしまう本音がある。

サラリーマンとして雇用される身となったからこそ、労働時間を人に決められてしまう辛さも分かるようにはなったけれど。

親も雇用される側の人(サラリーマン)が圧倒的に多かったこともあって、働く時間は短い方が良いのにとという本音を表に出せることは少なかった。

今年に入って、陽子さんの発言で分かるなと思う部分は、親の就業形態にも通じているのかなと思うようになった。(自営業は自由だからこそ、休んだ分は収入ゼロにつながる厳しさをいつも感じているし、経理に関わる部分は子供すら近づけない場だったことを感じていた)

皆さんの受け入れ方は意外とすんなりしていて驚きもあった。

「仕事での価値の出し方」が能力に由来しているという見方や、私が話しづらさのキーワードとして出していた「冷たさ」について、合理性の裏返しでもあるというコメントを頂いた。

それほど話しづらい話なのか？とも思われたかもしれないけれど、年齢に関わらず長時間働きたい人の存在も思うと、自分が職場で生きやすいように長時間労働も仕方ないよねと理解を示すようなスタンスを取らざるを得ない時もある。

でも本音の部分では、労働時間短くて成果を達成するチームを作りたい、というのが夢だ。

ここに憧れる後進たちがいるのかはまだ見えないけれど、回りの状況に流されず、自分自身がこれからも短時間で成果を出し続ける厳しい道を進む覚悟が必要なんだと腹をくくった感がある。

他のメンバーからは、これまで詳しく聞いたことの無かった家族(弟)の話が出ました。

確かに弟さんの状況はメンバーのポリシーとは全然違うので、職場の同僚に感じるような苛立ちを思い浮かべるのも自然に思いました。

病気により弟に対しての疑問感が解消した分、「かわいそう」と思う気持ちが生まれ始めているように感じました。

陽子さんから「一番かわいそうと思っているのは自分なのでは」の言葉で涙が流れていたのが気になりましたが、翌日には「弟はともかくとして」と一瞬で弟との関係性が流れていったのは、無意識に弟さんと良好な関係を築いているという不思議さもありました。

別のメンバーの話は、確かに社会倫理からいうと言いつらい話だろうと思いました。

これまでの釜立てテーマなどで恋愛話も聞いてきたからこそ、人情的な部分を大事にしていることが分かっていたので、私自身は関係性として許せない部分(年齢差など)もありつつも、そんな価値観を持っているんだなということはずっと受け止められたと感じています。

今回の公開個別フォローは、前回ほど緊張感を持って臨むという場ではありませんでしたが、だからこそ、「よいアドバイスをしよう」と変に肩の力を入れずに、自然に意見交換が出来たと感じました。

その後の美味しい夕食、ライブラリールームに戻ってのアフタートークも含めて、たくさんのお本音を交換できる時間を持ってました。レンタル会議室での特別な時間も含めて、企画に感謝です。

(A.S 40代女性 北海道)